

## <研究ノート>

# 鳥取大学における教職志望者の意識

大谷直史, 柿内真紀

Attitude Survey of Applicants for the Teacher Certification in Tottori University  
OOTANI Tadasu, KAKIUCHI Maki

キーワード：教員養成, 教員, 若者, 大学生

Key words: Teacher Training, Teacher, Youth, Under Graduate Students

## 1 はじめに

開放制による教員養成を行っている鳥取大学では、地域学部・工学部・農学部から毎年およそ 200 名程度の教職希望者に対して教職科目を開設している。しかしながら、進路の変更や科目履修の大変さなどから希望を変更するものも多い。また多様な学生が教職科目を履修するため、講義の内容やカリキュラムは教職課程で行う場合とは異なることが予想される。したがって、適切な教員養成のためには、どのような学生が何を考えて教職科目を履修しようとするのかを把握しておくことが重要である。特に、2013 年度から初めて導入される、4 年次の教職必修科目「教職実践演習」の授業開発にあたっては、対象となる学生の意識を捉えておく必要がある。

以上の問題意識のもと、本稿では 1 年次の講義「人間と教育—教職入門—」（教職必修科目）において 2007 年度から継続して行っている質問紙調査の結果を用いて、鳥取大学における教職希望者の意識を明らかにすることを目的とする。年度ごとの比較をはじめ、学部・学年・出身地等との関連など細部にわたる検討は改めて行うこととし、ここでは単純集計を中心に報告しておきたい。

なお、5 年間にわたる変化を見ることも本調査の課題であるが、今のところ一貫した傾向は見られない。フェイスシート部分等では年度ごとの数値を掲載するが、その他はすべての年度を足した数値となっている。中には複数年同講義を履修している者もあり、回答者が重なっている可能性もあるが、該当者は少数であると判断できるため、単純に合計している。

## 2 調査の概要

調査は、主に 1 年次学生が履修する教職の必修科目「人間と教育—教職入門—」の概ね初回に行っている。2007 年度から 2010 年度までは前期開講科目のため 4 月実施、2011 年度からは後期開講科目のため 10 月実施の調査である。すべて授業中に配布・回収を行った。設問構成は調査年度で若干異なり、とくにフェイスシート部分の学部・学科・出身地は 2010 年度以降の調査のみである（以下、学部・学科・出身地別の分析は 2010 年度以降のものである）。

## 3 調査結果

### 1) フェイスシート

5 年間の調査者数および、性別割合は表 1 の通りである。男女比ではやや女が多く、学部別では地域学部で女、工学部・農学部では男が多い。

表 1. 年度別性別 (%)

	男	女	無回答	総計	実数(人)
2007 年度	40.6	59.4	0.0	100.0	197
2008 年度	32.9	66.4	0.7	100.0	146
2009 年度	51.7	46.6	1.7	100.0	174
2010 年度	49.2	50.8	0.0	100.0	118
2011 年度	45.8	53.7	0.5	100.0	201
総計	44.0	55.4	0.6	100.0	836

学年はカリキュラムの位置づけ上、1 年次指定のため 1 年生が大半を占める。なお、2010 年度までは農学部のみ 2 年次指定科目のため、農学部では 2 年生の方が多くなっている。また、地域学部地域教育学科は 1 年次必修科目となっていることから、地域学部は 1 年生が多い。

表 2. 年度別学年 (%)

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年以上	無回答	総計
2007 年度	64.0	21.8	7.6	4.1	2.5	0.0	100.0
2008 年度	67.8	24.0	5.5	2.1	0.0	0.7	100.0
2009 年度	57.5	24.7	10.3	4.0	1.7	1.7	100.0
2010 年度	70.3	17.8	7.6	3.4	0.0	0.8	100.0
2011 年度	68.2	20.4	4.5	5.0	1.0	1.0	100.0
総計	65.2	21.9	7.1	3.8	1.2	0.8	100.0

学部が明らかとなっている 2 年間に限れば、表 3 の通り地域学部がおおよそ半数を占める。

表 3. 年度別学部 (%)

	地域学部	工学部	農学部	無回答	科目等履修生	総計
2010 年度	57.6	30.5	11.9	0.0	0.0	100.0
2011 年度	51.2	29.4	18.4	0.5	0.5	100.0
総計	53.6	29.8	16.0	0.3	0.3	100.0

出身地は地方都市と答える者が多く 44.5% を占める。続いて、郡部の農村・漁村・山村が多い (21.9%)

表 4. 年度別出身地の規模 (%)

	大都市	大都市近郊	地方都市	郡部の中心地	郡部の農村・漁村・山村	その他	記入ミス	無回答	総計
2007 年度	5.1	11.2	40.6	18.8	22.8	1.0	0.5	0.0	100.0
2008 年度	2.1	5.5	49.3	14.4	27.4	0.7	0.0	0.7	100.0
2009 年度	5.7	8.6	44.8	19.5	16.1	4.0	0.0	1.1	100.0
総計	4.4	8.7	44.5	17.8	21.9	1.9	0.2	0.6	100.0

2010 年度からは出身県を回答してもらっている。鳥取県 (21.9%) と並んで兵庫県 (21.3%) が多くなっている。

表 5. 年度別出身県 (%)

	鳥取県	兵庫県	岡山県	島根県	広島県	その他	無回答	総計
2010 年度	18.6	22.0	12.7	9.3	4.2	32.2	0.8	100.0
2011 年度	23.9	20.9	9.0	7.5	5.0	33.3	0.5	100.0
総計	21.9	21.3	10.3	8.2	4.7	32.9	0.6	100.0

表6は身近な人に教員がいた方が教職を目指す傾向が強いという仮説に従って行った設問である。対象群を設定していないために比較はできないが、ほぼ半数（49.4%）が身近にいるという結果となった。

表6．家族や親戚など身近に、教職に就いている(就いていた)人がいますか（年度別）（%）

	いる	いない	無回答	総計
2007 年度	45.2	54.3	0.5	100.0
2008 年度	56.2	43.2	0.7	100.0
2009 年度	47.1	51.7	1.1	100.0
2010 年度	52.5	43.2	4.2	100.0
2011 年度	48.8	49.3	2.0	100.0
総計	49.4	49.0	1.6	100.0

## 2) 学校に対する意識・経験

教職を志す場合は、学校の体験が肯定的なものであったことが予想される。表7・8・9は、それぞれ小学校・中学校・高校での生活が楽しかったかどうかを尋ねた結果である。すべての校種において「楽しかった」と回答するものが多く（それぞれ57.3%、53.0%、58.7%）なっている。先の設問と同様、比較することができないが、今後比較考察が必要である。

表7．小学校での生活は楽しかったですか（%）

	楽しかった	どちらかと言え ば楽しかった	どちらかと言え ば楽しなかった	楽しくな かった	記入ミス	無回答	総計
2007 年度	54.3	32.0	8.6	3.6	0.0	1.5	100.0
2008 年度	59.6	30.1	6.8	2.7	0.0	0.7	100.0
2009 年度	54.0	32.8	8.6	2.9	0.6	1.1	100.0
2010 年度	62.7	28.0	5.1	3.4	0.0	0.8	100.0
2011 年度	58.2	34.8	4.5	1.5	0.0	1.0	100.0
総計	57.3	31.9	6.8	2.8	0.1	1.1	100.0

表8．中学校での生活は楽しかったですか（%）

	楽しかった	どちらかと言え ば楽しかった	どちらかと言え ば楽しなかった	楽しくな かった	記入ミス	無回答	総計
2007 年度	54.8	28.9	12.2	2.5	0.0	1.5	100.0
2008 年度	56.2	32.9	8.2	2.1	0.0	0.7	100.0
2009 年度	45.4	36.2	11.5	4.6	0.6	1.7	100.0
2010 年度	54.2	30.5	10.2	4.2	0.0	0.8	100.0
2011 年度	54.7	33.8	7.0	3.5	0.0	1.0	100.0
総計	53.0	32.5	9.8	3.3	0.1	1.2	100.0

表9．高校での生活は楽しかったですか（%）

	楽しかった	どちらかと言え ば楽しかった	どちらかと言え ば楽しなかった	楽しくな かった	記入ミス	無回答	総計
2007 年度	60.4	26.9	8.6	2.5	0.0	1.5	100.0
2008 年度	67.8	23.3	6.8	1.4	0.0	0.7	100.0
2009 年度	54.6	27.0	11.5	5.2	0.6	1.1	100.0
2010 年度	62.7	30.5	5.1	0.8	0.0	0.8	100.0
2011 年度	58.7	29.9	6.0	5.0	0.0	0.5	100.0
総計	60.4	27.5	7.8	3.2	0.1	1.0	100.0

表 10 はやはり、教職を目指すものは学校において何らかの役職員を経験し、リーダーシップをとった経験がある可能性が高いという仮説による設問である。「ある」と回答した者は 72.7%にのぼり、これも比較検討が必要である。

表 10. 高校までに、学級委員や生徒会役員を経験したことがありますか (%)

	ある	ない	無回答	総計
2007 年度	71.6	26.4	2.0	100.0
2008 年度	81.5	17.1	1.4	100.0
2009 年度	67.8	31.0	1.1	100.0
2010 年度	73.7	26.3	0.0	100.0
2011 年度	71.1	28.4	0.5	100.0
総計	72.7	26.2	1.1	100.0

ボランティア等の体験を尋ねた設問の回答が表 11 である。経験があるとする者が多く、69.3%となっている。2011 年度はそれまでの年度と異なり 10 月実施調査のため、大学入学後も含めボランティアの機会が多いことが影響した結果ともとれる。教職志望者に対する教育ボランティアの推進が求められる昨今、教職志望の学生には、ボランティアの経験者が多いのかどうか、今後比較考察が望まれる。

表 11. あなたは、これまでに、ボランティア、職業体験実習、地域の催し、アルバイト、サークルなどで、直接、子、どもたちを教えたり、いっしょに活動したりしたことなどがありますか (%)

	ある	ない	無回答	総計
2007 年度	68.5	29.4	2.0	100.0
2008 年度	67.1	32.2	0.7	100.0
2009 年度	68.4	30.5	1.1	100.0
2010 年度	65.3	33.9	0.8	100.0
2011 年度	74.6	24.9	0.5	100.0
総計	69.3	29.7	1.1	100.0

### 3) 職業に対する意識

教職を目指す理由は、選択された結果なのか、それとも偶然目指されたものとしてあるのか、前者であればそれはどのような基準に基づいているのかを明らかにするために、職業選択の基準を尋ねた設問の結果が表 12 である（重要度が高いと答えたもの順に並べ替えている）。「やりがい」を「かなり重要」とするものが際立って多く（70.1%）、続いて安定性（46.9%）、収入（35.9%）と続く。

表 12. 職業選択の際に、次の項目はどの程度重要だと考えていますか (%)

	かなり重要	まあ重要	あまり重要 ではない	全然、重要 ではない	無回答	総計
やりがい	70.1	25.8	2.3	0.8	1.0	100.0
安定性	46.9	48.1	3.5	0.6	1.0	100.0
収入	35.9	56.3	6.2	0.6	1.0	100.0
専門的知識・技量	30.6	60.0	7.4	1.0	1.0	100.0
将来性	30.0	56.7	11.2	1.1	1.0	100.0
勤務地	28.6	49.2	18.3	3.0	1.0	100.0
仕事量	12.8	70.0	15.2	1.1	1.0	100.0
社会的評価	10.8	52.5	31.2	4.4	1.1	100.0
家族の意見	7.4	43.1	35.9	12.7	1.0	100.0

#### 4) 教職に就く希望

どの程度の思いで教職を考えているのかを聞いた設問が表 13 である。「強く考えている」とするものが 34.7% (いずれも総計)、「上位に考えている」とするものが 31.2%、「とりあえず」というものが 29.4%と、ほぼ 3 分された格好となっている。学部によって大きな差があり、地域学部と工学部は「強く考えている」とするものが 40%以上を占めるが、農学部では 10%に満たない (学部別は 2010 年度と 2011 年度の合計)。

表 13. あなたは、将来の職業の 1 つとして教職を考えていますか (%)

	教職に就きたいと強く考えている	職業の選択肢の中では上位に考えている	とりあえず、教員免許状を得ておこうと考えている	あまり考えていない	その他の職業を考えている	総計
総計	34.7	31.2	29.4	2.5	2.2	100.0
地域学部	45.0	33.3	17.0	2.3	2.3	100.0
工学部	41.1	24.2	32.6	1.1	1.1	100.0
農学部	7.8	31.4	52.9	5.9	2.0	100.0

教師になりたいと初めて思ったのは、高校時代が最も多く、36.6%となっている (表 14)。学部別では地域学部で小学校時代と答えた者が 19.9%と多く、工学部も中学校時代が 30.5%と高い。ここでも農学部は大学入学以後が最も高く 39.2%となっており、地域・工学部との差が目立つ。

表 14. あなたはいつ、「教師になりたい」と初めて思いましたか (%)

	小学校時代	中学校時代	高校時代 (浪人時も含む)	大学入学以後	記入の必要なし	記入ミス	無回答	総計
総計	15.2	27.9	36.6	13.9	4.7	0.6	1.2	100.0
地域学部	19.9	24.6	36.8	11.7	4.7	0.6	1.8	100.0
工学部	9.5	30.5	44.2	12.6	2.1	1.1	0.0	100.0
農学部	2.0	13.7	33.3	39.2	7.8	0.0	3.9	100.0

教師になりたいという動機を形成しているであろう、過去の先生との出会いについて、各学校段階で「いいな」と思った先生がいた割合を示したのが表 15 である。それぞれ 70%以上と高いが、中でも高校時代が最も高い (85.9%)。

表 15. 過去に「いいな」と思った学校の先生はいましたか (%)

	いた	特にいなかった	無回答	総計
小学校時代	76.4	22.5	1.1	100.0
中学校時代	79.7	19.4	1.0	100.0
高校時代	85.9	13.3	0.8	100.0

なりたと思った時期と先生との出会いの関係を示したのが表 16 である。各時代とも、いい先生がいたと思っている時代に教師になりたいと思った時期が重なっていることが分かる。

表 16. 「いいな」と思った先生の存在と「教師になりたい」と初めて思った時期 (%)

		小学校時代	中学校時代	高校時代 (浪人時も含む)	大学入学以後	記入の必要なし	記入ミス	無回答	総計
小学校時代	いた	18.0	28.6	34.1	13.3	4.7	0.5	0.8	100.0
	いなかった	6.4	26.1	43.1	16.0	4.8	1.1	2.7	100.0

中学校 時代	いた	14.4	31.8	35.7	11.7	4.7	0.6	1.1	100.0
	いなかった	18.5	12.3	39.5	22.2	4.9	0.6	1.9	100.0
高校 時代	いた	15.3	27.3	38.7	12.7	4.6	0.4	1.0	100.0
	いなかった	15.3	32.4	21.6	20.7	5.4	1.8	2.7	100.0

ではその「いいな」と思った先生はどのような先生だったのだろうか。表 17 は学校種ごとにそれぞれ特に当てはまるもの 1 つを尋ねた結果である。「児童・生徒の話を話を聞いてくれる先生」や「ユーモアがある先生」はどの学校種でも人気がある。小学校と中学校では「いけないことをきちんと叱ってくれる先生」の人气が高いが、高校では低くなる。逆に高校で高くなるのは「勉強で分からないことがあると、分かるまで教えてくれる先生」「生き方」のモデルになるような先生「幅広い知識を持っている先生」「進路指導をきちんとしてくれる先生」の人气が高まる。「進路指導ときちんとしてくれる」については、この調査を実施している「人間と教育」の授業内でも折々のレポート等で受講学生が語る「心に残る教師」の姿でもある。小・中学校段階で児童・生徒が求める教師像と、高校段階で求める教師像のちがいが表れた結果ともいえる。

表 17. 「いいな」と思った先生は、どんな先生でしたか (%)

	小学校	中学校	高校
勉強で分からないことがあると、分かるまで教えてくれる先生	2.2	6.7	11.5
いけないことをきちんと叱ってくれる先生	17.9	11.6	3.9
進路指導をきちんとしてくれる先生	0.4	4.2	15.2
児童・生徒の話を聞いてくれる先生	18.9	17.9	11.0
休み時間や放課後に一緒に遊んでくれる先生	9.3	0.5	0.2
児童・生徒の自主性を尊重してくれる先生	4.3	7.5	4.3
ユーモアがある先生	15.2	13.9	11.5
「生き方のモデル」になるような先生	3.0	7.4	11.0
型破りな先生	2.4	3.7	4.7
幅広い知識を持っている先生	1.7	4.3	11.1
その他(具体的に下の余白に書いて下さい)	1.4	1.4	1.3
「いいな」と思った先生は特にいなかった	15.8	14.8	9.2
記入ミス	1.9	1.7	1.2
無回答	5.6	4.3	3.8
総計	100.0	100.0	100.0

##### 5) 教職への自信

将来教師になった場合、どのくらい自信が持てそうだと思うかについて、表 18 の各項目について尋ねた。上から順に自信をもっている順に並べ替えている。上位には「子どもの気持ちを理解する」「同僚教師とうまくやっていく」といった対人関係に関わる項目が並び、「人間的魅力がある」「幅広い知識がある」といった項目は下位に位置している。回答者の多くが 1 年生・2 年生であることが影響していると考えられる。

表 18. あなたが将来教師になった場合、次のことに、どのくらい自信が持てそうだと思いますか (%)

	とても 自信が ある	まあま あ自信 がある	どちら ともい えない	あまり 自信が ない	全然自 信がな い	記入ミ ス	総計
子どもの気持ちを理解する	13.2	50.7	25.6	9.1	1.4	0.0	100.0
同僚教師とうまくやっていく	13.2	48.7	29.4	7.4	1.2	0.1	100.0
自分なりの教育観を持っている	13.3	39.2	37.0	8.9	1.7	0.0	100.0
子どもたちからの信頼を得る	9.8	42.9	36.2	9.3	1.6	0.1	100.0
わかりやすい授業をする	4.9	31.0	42.0	19.4	2.6	0.1	100.0

保護者からの信頼を得る	6.1	27.8	44.0	18.1	3.8	0.2	100.0
学級運営面でのリーダーシップを発揮する	8.6	27.0	37.6	22.7	3.8	0.2	100.0
人間的魅力がある	3.5	20.1	47.4	23.4	5.6	0.0	100.0
幅広い知識がある	3.5	22.0	40.7	29.8	3.9	0.1	100.0

#### 6) 教師の認識

表 19 は教師の現状認識について聞いたものである。これも肯定的な回答が多い順に並べ替えている。自分の自信とちょうど逆に「幅広い知識を持っている」が最も肯定される結果となった。一方で「人間的に優れた人が多い」「保護者からの信頼を十分に得ている」という項目については、自分の自信と同様、低い肯定率にとどまっている。また多忙化しているという認識が強いのか、「教材研究（授業準備）をする時間が十分にある」という項目の肯定率が最も低かった。

表 19. あなたから見た今の現場で働いている教師は、あなたにはどのようにみえますか

	とても そう 思う	まあ そう 思う	あまり そう 思 わ ない	全然 そ う 思 わ ない	無 回 答	総 計
幅広い知識を持っている	23.9	55.9	17.9	1.8	0.4	100.0
自分なりの信念を持って、教育活動に臨んでいる	9.8	58.5	29.2	2.4	0.1	100.0
研究熱心である	11.1	47.8	37.0	3.9	0.1	100.0
社会経験が豊かだと思う	14.5	43.1	34.3	8.0	0.1	100.0
愛情豊かな人が多い	10.4	42.8	40.8	5.9	0.1	100.0
生徒に対して細やかな気配りを十分にしている	7.2	44.4	41.9	6.2	0.4	100.0
学級運営にあたりリーダーシップを発揮している	7.1	43.4	43.8	5.3	0.5	100.0
人間的に優れた人が多い	7.8	39.5	45.0	7.7	0.1	100.0
保護者からの信頼を十分に得ている	3.1	42.0	47.7	7.1	0.1	100.0
教材研究(授業準備)をする時間が十分にある	3.0	34.6	45.2	16.9	0.4	100.0

#### 7) 教職に関する考え方

教職に関する考え方を尋ねたのが表 20 である（肯定が多い順に並び替え）。「教師は、やりがいのある仕事である」「教師は、学ぶことのおもしろさに、子ども(児童・生徒)を導く職業である」という意見については半数以上が「とてもそう思う」と回答している。逆に「全然そう思わない」が半数近いのが「教師の仕事量は、勤務時間内に収まるものである」という考え方である。

表 20. あなたは次の意見に対して、どう思いますか

	と て も そ う 思 う	ま あ そ う 思 う	あ ま り そ う 思 わ な い	全 然 そ う 思 わ な い	無 回 答	総 計
教師は、やりがいのある仕事である	52.2	42.1	4.4	0.6	0.7	100.0
教師は、学ぶことのおもしろさに、子ども(児童・生徒)を導く職業である	50.6	42.5	5.9	0.5	0.6	100.0
教師は、「専門的知識」よりも「優れた人間性」を必要とする職業である	22.8	57.1	17.8	1.7	0.6	100.0
家庭や地域社会は今よりも学校運営に関わるほうがよい (2007 年度はこの設問なし)	26.1	44.1	24.4	4.2	1.1	100.0
子どもの教育に関しては、教師と親は対等な立場にあるべきだ	26.2	40.8	28.0	4.4	0.6	100.0
教師は、学校外での子どもの生活にも配慮をするべきである	18.2	52.0	24.6	4.4	0.7	100.0
教師の体罰は、場合によっては必要である	16.4	43.3	29.5	9.9	0.8	100.0

教師は、「尊敬される職業」である	15.0	42.1	35.5	6.9	0.5	100.0
教師は、私生活でも模範的であるべきだ	13.9	42.0	36.1	7.2	0.8	100.0
教員給与は、成果に応じて査定して決定する方法がよい	9.4	33.4	47.5	9.1	0.6	100.0
教師は、熱意と愛情があれば務まる(勤まる)職業である	4.4	28.2	51.1	15.7	0.6	100.0
教師の仕事量は、勤務時間内に収まるものである	2.0	8.4	41.3	47.8	0.5	100.0

#### 4 今後の課題

鳥取大学において教職を目指す学生が、どのような思いから教職課程を履修しているのか、その様相を単純集計から眺めてきた。今後調査を継続し（2012年度は実施済み）、詳細な分析を加えていくことが必要となる。さしあたり、学部別・年度別・学年別の意識のあり方を整理することが課題であるが、いくつかの点で比較考察が必要なことを示したように、さらに他大学や教職を目指さない学生との対比も必要となるだろう。また、2012年度入学生から実施している教職ポートフォリオと関連付けた実践的な調査も考えられる。少なくとも「例年に比べて今年の受講生の特徴は」といった考察が可能になれば、この調査が1年次対象の教職入門科目で実施されていることを考えれば、4年次後期に仕上げとして新たに開講される「教職実践演習」の授業開発や、それに至るプロセスにおける学生支援および演習や講義の進め方において有用な調査となることが期待される。一方で教職志望という特殊な動機を持っている学生の在り方——それはあまりに規範的な生き方かもしれない——を明らかにしていくことも、現代の学生（若者）の一類型を抽出するという意味を持っているかもしれない。

※本調査分析は、鳥取大学学長経費（教育・研究改善推進経費）2011年度「教職実践演習の授業開発に向けた教職カリキュラム履修状況の調査・検討」および、同2012年度「教員養成カリキュラムの充実を目指した「教職実践演習」授業開発プロジェクト」（いずれもプロジェクト代表：柿内真紀）による。

大谷直史（鳥取大学大学教育支援機構）

柿内真紀（鳥取大学大学教育支援機構）

#### <資料> 調査票（2011年度版）

##### 教職に関するアンケート

1. 以下の項目について、①～③は当てはまるものに○をつけ、④は回答欄に記入してください。

①あなたは、将来の職業の1つとして教職(教員)を考えていますか。

1. 教職に就きたいと強く考えている
2. 職業の選択肢の中では上位に考えている
3. とりあえず、教員免許状を取得しておこうと考えている
4. あまり考えていない
5. その他の職業( )を考えている

②上の質問で1, 2, 3と回答した人に質問します。(4, 5と回答した人は③に進んでください。)

(1)取得を希望する教員免許状の学校種と教科(中・高の場合)は何ですか。



(2)あなたはいつ、「教師になりたい」と初めて思いましたか。

1. 小学校時代 2. 中学校時代 3. 高校時代(浪人時も含む) 4. 大学入学以後

(3)そのきっかけは何でしたか。具体的に書いてください。

③過去に「いいな」と思った学校の先生はいましたか。学校段階ごとにすべて答えてください。

- |       |       |            |
|-------|-------|------------|
| 小学校時代 | 1. いた | 2. 特にいなかった |
| 中学校時代 | 1. いた | 2. 特にいなかった |
| 高校時代  | 1. いた | 2. 特にいなかった |

④その先生はどんな先生でしたか。特に当てはまる項目1つを、学校段階ごとに下の回答欄に答えてください。

1. 勉強で分からないことがあると、分かるまで教えてくれる先生
2. いけないことをきちんと叱ってくれる先生
3. 進路指導をきちんとしてくれる先生
4. 児童・生徒の話をきちんと聞いてくれる先生
5. 休み時間や放課後に一緒に遊んでくれる先生
6. 児童・生徒の自主性を尊重してくれる先生
7. ユーモアがある先生
8. 「生き方のモデル」になるような先生
9. 型破りな先生
10. 幅広い知識を持っている先生
11. その他(具体的に下の余白に書いて下さい)
12. 「いいな」と思った先生は特にいなかった

小学校(1つ)	中学校(1つ)	高校(1つ)

2. あなたが将来教師になった場合、次のことに、どのくらい自信が持てそうだと思いますか。

	とても自信 がある	まあまあ自 信がある	どちらとも いえない	あまり自信 がない	全然自信が ない
①わかりやすい授業をする	1	2	3	4	5
②子どもの気持ちを理解する	1	2	3	4	5
③幅広い知識がある	1	2	3	4	5
④学級運営面でのリーダーシップを発揮する	1	2	3	4	5
⑤人間的魅力がある	1	2	3	4	5
⑥保護者から信頼を得る	1	2	3	4	5
⑦子どもたちから信頼を得る	1	2	3	4	5

⑧同僚教師とうまくやっていく	1	2	3	4	5
⑨自分なりの教育観を持っている	1	2	3	4	5

3. あなたから見て、今、学校で働いている教師は、どのようにみえますか。

あなたの考えに近いものに○をつけてください。

	とてもそう 思う	まあそう思 う	あまりそう 思わない	全然そう思 わない
①自分なりの信念を持って、教育活動に臨んでいる。	1	2	3	4
②研究熱心である。	1	2	3	4
③生徒に対して細やかな気配りを十分にしている。	1	2	3	4
④社会経験が豊かだと思う。	1	2	3	4
⑤幅広い知識を持っている。	1	2	3	4
⑥学級運営にあたりリーダーシップを発揮している。	1	2	3	4
⑦愛情豊かな人が多い。	1	2	3	4
⑧人間的に優れた人が多い。	1	2	3	4
⑨保護者からの信頼を十分に得ている。	1	2	3	4
⑩教材研究(授業準備)をする時間が十分にある。	1	2	3	4

4. あなたは次の意見に対して、どう思いますか。自分の考えに近いものに○をつけてください。

	とて もそう 思う	まあ そう 思う	あま りそう 思わ ない	全然 そう 思わ ない
①教師は、熱意と愛情があれば務まる(勤まる)職業である。	1	2	3	4
②教師は、「専門的知識」よりも「優れた人間性」を必要とする職業である。	1	2	3	4
③教師は、私生活でも模範的であるべきだ。	1	2	3	4
④教師は、学校外での子どもの生活にも配慮をするべきである。	1	2	3	4

⑤教師の仕事量は、勤務時間内に収まるものである。	1	2	3	4
⑥教師は、「尊敬される職業」である。	1	2	3	4
⑦教師は、やりがいのある仕事である。	1	2	3	4
⑧教師の体罰は、場合によっては必要である。	1	2	3	4
⑨子どもの教育に関しては、教師と親は対等な立場にあるべきだ。	1	2	3	4
⑩教師は、学ぶことのおもしろさに、子ども(児童・生徒)を導く職業である。	1	2	3	4
⑪教員給与は、成果に応じて査定して決定する方法がよい。	1	2	3	4
⑫家庭や地域社会は今よりも学校運営に関わるほうがよい。	1	2	3	4

5. 最後に、あなた自身のことについて、聞きます。

①性別 1. 男 2. 女

②学年 1年生 2年生 3年生 4年生 その他

③学部・学科 ( )学部 ( )学科

④鳥取大学入学前はどこに住んでいましたか。 ( )都・道・府・県

⑤教員採用試験を受ける予定ですか。 1. はい 2. いいえ

(受ける場合)→受ける予定の都道府県はどこですか。(複数回答可)

( )

⑥あなたの家族や親戚など身近に、教職に就いている(就いていた)人がいますか。 1. いる 2. いない

⑦これまで通った学校での生活は楽しかったですか。答えられる範囲で学校段階ごとに答えてください。

<小学校> 1. 楽しかった 2. どちらかと言えば楽しかった 3. どちらかと言えば楽しなかった 4. 楽しなかった

<中学校> 1. 楽しかった 2. どちらかと言えば楽しかった 3. どちらかと言えば楽しなかった 4. 楽しなかった

<高校> 1. 楽しかった 2. どちらかと言えば楽しかった 3. どちらかと言えば楽しなかった 4. 楽しなかった

⑧高校までに、学級委員や生徒会役員を経験したことがありますか。 1. ある 2. ない

⑨これまでに、ボランティア、職業体験実習、地域の催し、アルバイト、サークルなどで、直接、子どもたちを教えたり、いっしょに活動したりしたことなどがありますか。 1. ある 2. ない

⑩職業選択の際に、次の項目はどの程度重要だと考えていますか。今のあなたの考えに一番近いものを1つ選んでください。

	かなり重要	まあ重要	あまり重要 ではない	全然、重要 ではない
①安定性	1	2	3	4
②仕事量	1	2	3	4

③収入	1	2	3	4
④勤務地	1	2	3	4
⑤社会的評価	1	2	3	4
⑥将来性	1	2	3	4
⑦やりがい	1	2	3	4
⑧家族の意見	1	2	3	4
⑨専門的知識・技量	1	2	3	4

⑪教員免許状取得に関する単位の履修方法について、学部のオリエンテーション(ガイダンス)をすでに受けましたか。

1. はい                      2. いいえ

⑫上記の履修について、まだわからないことや質問があれば書いて下さい。